

令和 6 年度 空港技術懇話会（第 1 回）

議事概要

日時：令和 6 年10月16日（水）10:00～12:00

場所：中央合同庁舎3号館8F特別会議室 + Microsoft Teams 会議

議事次第に沿って、事務局、各者から資料の説明を行い、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

【空港技術基本計画フォローアップ】

- 能登半島地震の事案では二次交通が重要と感じた。また、通信も重要で、キャリア通信が使用できない中、空港ビルのWi-Fiが使えたことはありがたかった。防災機能強化(被災者支援)と運航復旧の両立・連携は課題と思う。
- 二次交通は、日頃から維持することが重要。災害時のみ担うことが難しいことが今回の事案で分かった。一般の通信拠点は災害時の保持時間が決まっているが、空港が通信も電力も保持できるなら、適切な活用が重要となる。
- GSE車両の修理工が不足している。一般的に、部品の交換等はメーカー対応だが、通常のメンテナンスは自動車修理工場に依頼している。しかし、地方では人手不足で廃業する修理工場もある。車両のEV化で整備熟練者が必要なくなるという流れもあるが、現状をどうするかというのが課題。
- バスも、運転手より整備士が足りない状況。

【研究所、空港会社、航空会社の取組】

- 強震計による液状化のモニタリングについては、航空機が離陸するか、ビルに戻るかといった判断に使えるのか。
（回答）実用化には適用可能な地盤条件や強震計の設置密度などにまだ課題あり。

- チェックインはオフエアポート化が進んでいる一方、手荷物の処理についてはかなりの人手がかかっている。しかし、ロボット化するにしても、BHSの改修等にも及ぶ等もあるため課題が多いと思う。
- 超急速EV充電は空港内のGSEやバスにも使えるか。
(回答) 充電ポイント等課題があるが当然目指している。
- エアラインが取り組んでいる技術的課題の解決のため、空港側のサポート等の連携やディスカッションする場が必要ではないかと思う。
- 中部空港のAIによる鳥検知システムは、こういった点にAIを活用しているのか。
(回答) 以前は手動でカメラを動かし鳥を見つけていたが、AIによる監視で鳥を検知している。カメラは自動旋回のため職員の負担は減っている。ただし、現状夜間は使えない。また、鳥の検知と併せて、追い払いもできると良いと考えている。
- 成田空港では災害時に空港から周辺地域へ応援に出向いた事例がある。空港の除雪系車両は落ち葉処理に有効という話もある。
- 空港が周辺地域を助ける事例は興味深い。例えば、電力供給の点でも、空港がエネルギーの基地となって周辺地域に電力を共有するなど、双方向の助け合うという姿は今後も検討しなければいけない。
- TAMの取り組みは、空港運用全体が把握できることで、どこに時間的、空間的な無駄となっている部分があるかを把握できるようになると思う。
- 以前、NAAで駐車スペースの検討をしたときにGSEの稼働状況を調べたことがあったが、1/3程度しか稼働していなかった。見える化、可視化に注力していただきたけるとよいと思う。
- 今回は大空港での取り組み紹介であったが、地方空港でも負担を掛けずにセンサー等を利用し遠隔管理できるようになると軽減が図れ、効果があると思

う。空港に合った技術開発を進めていただきたい。

- 空港におけるイノベーション推進のため、空港をフィールドとしたスタートアップ育成を視野に取り組みを進めてもらいたい。各社の方向性は違うと思うが、3空港が連携して進めることができると理想的。失敗を許容する投資のマインドで、挑戦を支援してほしい。また、GSEの位置管理把握による運用効率化により捻出できた空間を他に利用できると、空港全体の効率化に資することから、そのような取り組みに支援やインセンティブを与える考え方が空港会社側にもあっていい。

以上。